

日本プロセス化学会

第 52 回理事会 議事録（WEB 公開版）

1. 会議概要

項目	内容
会議名	日本プロセス化学会 第 52 回理事会
日時	2026（令和 8）年 7 月 1 日（水）14:30～16:30
会場	アクトシティ浜松 コンgressセンター 2 階 22・23 会議室
進行	秋山隆彦 会長
出席	出席 41 名、欠席
主な資料	第 52 回理事会資料、今後を考える会 理事会用資料、出欠リスト

2. 審議事項および承認結果

No.	議題	結果・主な内容
1	2025 年度決算案	2025 年度決算案について審議し、承認された。（赤井） 監事監査報告があった。（間瀬 ^輔 ）
2	2026 年度予算案	2026 年度予算案について審議し、承認された。（赤井）

3. 主要報告事項

事項	要旨
田中規生顧問（元副会長）	2016 年から理事、2017 年度から 2022 年度まで副会長を務めた田中規生顧問の逝去が報告され、出席者により黙祷を行った。
2025 年ウィンターシンポジウム	2025 年 12 月 5 日に京都テルサで開催。参加者 359 名、情報交換会 241 名。情報交換会は京都テルサでの開催が困難であったため、京都駅直結のザ・サウザンド京都へ移動して実施した。（水船）
ISPC2026 準備状況	2026 年 7 月 1～3 日、アクトシティ浜松で開催。事前登録 752 名、ポスター 194 件（一般 110 件、学生 84 件）、企業展示 119 社、情報交換会 618 名。学生優秀発表賞を新設し、学生発表から 3 件を選出予定。（赤井）
2026 年ウィンターシンポジウム準備状況	2026 年 12 月 4 日、タワーホール船堀で開催予定。午前は「分析とプロセス化学（仮）」をテーマとする教育講演。資料中の有友啓一氏の所属は「田辺ファーマ」へ修正する。（水船）
地区フォーラム	東四国地区フォーラムは第 39 回を 2026 年 6 月 27 日に実施。第 40 回記念大会は 2026 年 12 月 19 日（土）へ訂正。（三好）東海地区フォーラムは 2026 年 10 月 15 日に静岡大学浜松キャンパスで再開予定。（間瀬 ^輔 ）
Teams 活用	学会資料・議事録・ノウハウを Teams に集約し、担当者交代時にも継承しやすい運営基盤とする方針を了承。出前講義用チャンネルを新設し、将来計画委員会の正副委員長に編集・管理補助権限を付与する方向。（間瀬 ^輔 ）
将来計画委員会	第 16 回ラウンジ報告、第 17 回ラウンジ準備、2026 年ウィンター午前企画、委員会規約改定、委員交代・増員、他学会展示、SNS（X）開設方針が報告された。（小宮）
出版委員会	創設 25 周年記念誌は 30 周年記念誌として延期する方向。New Horizons of Process Chemistry 第 2 版は Springer との契約後、著者連絡を進める。「医薬

	品のプロセス化学」は正誤表・整合表対応を水船副会長が窓口となり進める。 （高須）
Pacificchem 2025	海外 17 名、日本 16 名が講演し、日本企業の若手・中堅研究者の講演と海外研究者との交流が高く評価された。（林）
会員数の増加	2026 年度 4 月以降、新規賛助会員 7 社、新規正会員 55 名、新規学生会員 52 名の申込があった。ISPC2026 参加費における会員・非会員差額設定が奏功した。（赤井）

4. 今後のシンポジウム予定

区分	世話人	会期・会場
2026 ウィンター	有友啓一（田辺ファーマ）、和田猛（東京理科大学）	2026 年 12 月 4 日（金）、タワーホール船堀
2027 サマー	大東篤（アステラス）、大嶋孝志（九州大学）	2027 年 7 月 8 日（木）～9 日（金）、タワーホール船堀
2027 ウィンター	福田展久（住友ファーマ）、滝澤忍（大阪大学）	会期・会場検討中
2028 サマー	渡辺尚之（UBE）、大嶋孝志（九州大学）	北九州市または福岡市を候補として検討
2028 ウィンター	川中康史（小野薬品）、布施新一郎（名古屋大学）	会期・会場検討中

2028 年 1 月から 2030 年 5 月頃までタワーホール船堀、同時期にアクトシティ浜松の改修工事が予定されているため、別会場の検討が必要であることが共有された。